

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

〈事務局〉
〒514-0003 三重県津市桜橋 2 丁目131
三重県社会福祉会館 1F
編集：広報部会
電話 059-213-7766
FAX 059-213-7765
<http://mie-cma.com/>

〈発行者〉
一般社団法人 三重県介護支援専門員協会
会長 奥田隆利



一般社団法人 日本介護支援専門員協会

令和6年度「東海ブロック研修会 in 三重」

ケアマネジメントに係る諸課題に関する 検討会の中間整理から



一般社団法人 三重県介護支援専門員協会
会長 奥田隆利

会員の皆様方におかれましては、当協会の事業にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、利用者様の生命と日々の生活を守り、自立支援とQOLの向上をめざすケアマネジメント業務を遂行されていることに心より敬意を表します。

令和六年十二月に「ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会」の議論内容が中間整理という形でまとめられました。まさに、我々介護支援専門員の業務内容等について国の検討会で議論がなされたのです。そこで令和七年二月に「東海ブロック研修会 in 三重」に同検討会の構成メンバーである日本協会の柴口

会長にご登壇いただきました。我々の代表である日本協会から、第四回の検討会で、「トータルケアマネジメントの推進」「シャドールワーク解消のための地域資源の創設再構築」「家族機能の低下による支援体制の整備」等についての意見書が提出されました。また、主任介護支援専門員の役割の一つとしての「ケアプラン点検」については、三重県協会の取り組みについてご紹介いただきました。本検討会では、居宅介護支援事業所におけるケアマネジャーの業務について、「法定業務」「保険外サービスとして対応しうる業務」「他機関につなぐべき業

務」「対応困難な業務」の4類型に分け一定の整理がなされました。次期介護報酬の改定等制度改正に向けて審議会で議論されることとなります。他人事ではなく自分事として、各地域支部で議論していただき、皆様の意見を県協会で集約し、日本協会に届けていきたいと考えております。日本協会の情報収集システム（モニター調査）の協力者は勿論、会員各位のご協力をお願い申し上げます。

「東海ブロック研修会 in 三重」に来賓で挨拶をいただいた、津市長の前葉様、三重県長寿介護課の井谷課長様並びに三重県医師会の馬岡会長様からもあたたかい応援メッセージをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

また、八か月以上前から議論を重ね、前日も遅くまでご準備いただいた四十三名の実行委員の皆様改めて感謝申し上げます。

三重県民の最大の特徴は、気配り上手で人当たりが良く、相手を思いやる心がとても強い、そして真面目で奉仕精神が旺盛だそうです。一丸となってそれぞれの能力を活かすすめていく、このすばらしいチームワークが三重県協会の宝、人財だと自負しております。

令和6年度 東海ブロック研修会

in 三重

令和六年度東海ブロック研修会 in 三重が令和七年二月十一日に開催されました。今号では、研修会で頂いた皆様のご意見・ご感想を抜粋し、まとめたくうえで掲載します。開催内容等の詳細はWEB版のケアマネ通信に掲載しましたので是非合わせてご覧下さい。

講演① 「ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会(ごっこ)」

〇ケアマネジメントの課題と処遇改善

「ケアマネの精神的負担の割合に介護報酬が低い」「基本報酬の引き上げが必要」との声が多く、年収五百万円の実現が人材確保の鍵との意見もありました。協会の取り組みに期待する声がある一方で、若い世代がケアマネを目指しにくい現状に不安を感じる意見も見られました。



〇業務の負担軽減と専門性の確立

「雑務が多く、ケアマネの本来の仕事とは何か考えさせられた」「シャドーワーク解消のためにできることを探したい」との声がありました。専門職としての地位向上や、保険外サービスの活用を含めた環境整備の必要性が指摘されています。

〇協会の役割と今後の方向性

「協会が考える現状課題を学べた」「職能団体としての意義を再認識した」との声がありました。柴口会長の熱意が伝わり、ケアマネジメントの未来に向けた意識の向上につながったとの意見も多く寄せられました。

これらの意見から、業務の負担軽減、処遇改善、専門性向上、そして将来への期待など、多岐にわたる課題意識を持っていることがわかります。また、協会に対する期待も大きいことが伺えます。

講演② 「能登半島地震と災害支援について」

多くの方が、BCP（事業継続計画）の重要性を再認識しながらも、実際の災害時には想定通りには動けないことを痛感されたようです。



能登半島地震の被災地で活動された講師のリアルな体験談が印象的で、「災害支援の現実を知ることができ、参考になった」「ケアマネジャーの役割が明確になった」との声が多く寄せられ、災害コーディネーターの研修を受講したいと思ったとの意見もありました。

また、「BCPの計画は重要だが、実際には想定外の事態が起こるため、その場に応じた対応力が必要」「被災時の混乱や支援体制の課題を具体的に学ぶことができた」との意見もあり、BCPの見直しの必要性を感じた方が多かったようです。

さらに、「今後予測される南海トラフ地震に向け、地域での連携を強化したい」「日頃の備えや、顔の



見える関係づくりが重要と改めて感じた」といった意見もありました。被災地での実際の支援活動を知ることで、今後の防災・減災への意識が高まったことが伺えます。

各県協会の発表について

(愛知・三重・岐阜・静岡)



愛知県・三重県の発表では、発災から一年が経過した今だからこそ見えた課題や今後の取り組みに関心が集まりました。岐阜県の発表については、「地域づくり」の取り組みや、高齢者実態調査に関する内容も参考になったとの声が多数寄せられ、「ケアマネの業務が【地域づくり】に関わる重要性を再認識した」という意見もありました。静岡県のICT活用による業務効率化についての発表には、実践的な内容であり、特に興味深かったとの意見が多く寄せられました。ICTを活用した業務改善に対する関心は高く、「業務負担の軽減につながる」「導入したいが難しさも感じる」との声がありました。長年の紙媒体の活用

からの移行に抵抗を感じる一方で、「業務の効率化が進めば、ケアマネの人材確保にもつながらる」との期待が寄せられました。

日本協会活動に報告に関して

○ケアマネ不足と協会の役割

ケアマネの減少に対する危機感を持ち、協会の活動の重要性を再認識したという声が多く寄せられました。「介護支援専門員の役割の大切さを再確認した」「会員数を増やし、組織としての力を強化すべき」といった意見がありました。

○業務環境の改善と効率化

「ケアマネが長く働ける環境づくりが必要」「業務の効率化に関心が高まった」という声があり、具体的な取り組みへの期待が寄せられました。

○協会の発信と会員拡大

協会の活動内容について、「素晴らしい取り組みをもっと広く伝えるべき」「会員数を増やすためのメリットを明確にする必要がある」との意見が見られました。



会場参加の「意見

○会場ならではの魅力

「発表者や会場の雰囲気・熱量を直接感じ、明日からの業務に活かせると感じた」「会場の一体感があり、対面での研修の良さを再認識した」との声が多数寄せられました。また、「活発な質問や発言があり、臨場感があった」「他県の会員と交流できたことが貴重な経験になった」といった意見も見られました。

○会場設備や運営について

「マイクの調整が良く、進行がスムーズだった」「津駅から近く、アクセスしやすいかった」との好意的な意見がある一方で、「ホワイトボードが見えにくかった」「会場が寒かったので暖房を調整してほしい」「机があると記入しやすい」との要望もありました。また、「グループワークがあると、さらに学びが深まるのでは」といった意見も寄せられました。



オンライン参加の「意見

○オンライン参加のメリット

「会場へ出向かなくて良く満足」「交通費が削減できる」「気候や駐車場の心配なく参加できてありがたい」といった意見があり、遠方や業務多忙の方でも気軽に参加で

きる大きな利点であることが分かります。また、「ズームなら全国の研修に参加できていい」という声もあり、今後の研修の広がりにも期待が寄せられる感想がありました。

○音声・映像環境について

「映像や音声が乱れることなく聞くことができた」「カメラの照明も同時合わせてもらえて会場にいるかのように感じられた」との声が多く、技術的なトラブルは少なかった一方で、「ホワイトボードなどは見にくかった」「会場の様子が分からないう場面があった」との意見もあり、オンライン参加者にとってより分かりやすい映像配信の工夫を求める意見もいただきました。

○参加のしやすさと充実度

「ゆっくりと研修を受けることができた」「視野が広がった」「災害やICTによる業務効率化について勉強になった」といった意見から、オンラインでも充実した学びが得られたことが伺えます。ただ、「質疑応答が物足りなかった」「チャット等で随時質問を受け付ける仕組みがあると良い」との意見もありました。

全体を通じて

今回の研修会では、参加者から多くの感謝の声を寄せていただきました。特に、会場でのスタッフの対応や、スムーズなオンライン配信に対する評価が高く、「とても勉強になった」「期待通りでよかった」との声をいただきました。また、三重県の協会による先進的な取り組みに対する関心や、全国の事例を知る機会として有意義だったという意見も目立ちました。

研修テーマに関しては、特に災害対策やケアマネジメントの課題について多くの学びがあったとの声があり、能登半島地震の支援報告を通じて、BCP（事業継続計画）の重要性を改めて認識する機会となったようです。

○おわりに

東海ブロック研修会の取り組みを高く評価していただき、次回開催に対する期待の声をいただけたことに、深く感謝申し上げます。今回の研修会を通じて、様々な取り組みを学び、自身の業務の見直しや新たな挑戦へのきっかけになったとの声を数多く寄せていただきました。今後もこうした機会を通じて、業務の質の向上と支援の幅を広げていければと思います。貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

ケアマネ総合相談

三重県介護支援専門員協会では、二〇一三年から「ケアマネジャー総合相談事業」を行っています。この事業は、経験豊富なアドバイザーとケアマネジャーの皆さんが気軽に意見交換できる場として、利用者支援や日常業務に役立つアドバイスを提供するものです。「第三者の視点での助言が業務改善につながった」「利用者支援の質が向上した」と、多くの方に好評いただいています。

ケアマネジャーの皆さんが日々抱える悩みとして、こんな声をよく耳にします。

☆業務が多すぎて時間が足りない！ケアプラン作成やモニタリング、書類作成に追われ、毎日バタバタ…。

☆関係者との調整が難しい…利用者様やご家族、医療機関、サービス事業所との意見が食い違うことも。

☆最新の制度や知識についていけない！介護保険の改正があるたびに不安…。

☆家族との板挟みになることが多い利用者様とご家族の意見が合わず、どちらの意向を尊重すべ

きか悩む。

☆「何でも屋」状態…他部署の仕事も増え、気がつけば業務過多。

そんなお悩みに対して、当協会では次のようなサポートを行っています。

○自立支援型ケアマネジメントのアドバイス利用者様の自立をサポートするケアプラン作成のポイントを伝授。

○公正中立な視点でのアドバイス利用者様、ご家族、サービス提供者との関係を整理し、より良い対応を一緒に考えます。

○運営基準や介護報酬の確認「これで合っている？」という疑問にも、最新情報をもとにしっかりお答えします。

アドバイザーは、協会の理事である主任介護支援専門員や、適任と認められた介護支援専門員が担当します。もちろん、相談内容は秘密厳守！安心してご相談ください。

今年度もZoomを活用したオンライン形式で実施しますのでも、お好きな場所からご参加いただけます。この機会に、ぜひ「ケアマネジャー総合相談事業」をご活用ください！皆さんのご参加をお待ちしています。

能登半島地震における災害支援ケアマネジャーの現地活動報告

災害対策委員長 塩井 崇

二〇二四年一月一日に発生した能登半島地震は、多くの方々の生活を一変させました。災害支援ケアマネジャーとして現地に入り、支援活動を行った内容を被災地の経験を通じて、災害時におけるケアマネジャーの役割や課題についてお伝えしたいと思います。

震災発生直後、多くの高齢者が避難所や施設や在宅にて不安を抱えながら生活を送っていたと現地のケアマネジャーより聞きました。また、避難所では介護が必要な方が適切な支援を受けられず、環境の変化による体調悪化もありました。特に認知症の方は混乱しやすく、普段の生活リズムが崩れることで不安を募らせていました。

私が二月に現地の石川県に行った際に、まず金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」1.5次避難所に入りました。1.5次避難所では、被災された高齢者・障害者や妊婦など、特別な配慮が必要な方々や一般の方も含め一時的に受け入れる施設として機能していました。そこで、災害支援ケアマネジャーとしての役割として高齢者等で介

護が必要な方へ次の生活の場の調整（マッチング）を行いました。

金沢市ではそれほど地震による被害はなかったのですが輪島市への支援に向かう途中において家屋の一部が壊れた家や倒壊した家が多くなり、道路も落石により通行できないところや崩落している所がだんだん多くなってきました。

輪島市の現地に入った時は、電気は通じていましたがガス・水道はまだ復旧していません。状況です。市内は、倒壊した家屋が多く道路も陥没していたりマンホールが隆起していたりと車での通行が難しい状況でした。

今回、現地支援において災害支援ケアマネジャーの役割として、高齢者・障害者等の安否確認や被災状況を確認する為、避難所・個別訪問を行いました。それぞれに住環境や生活状況・身体状態などに大きな不安をもたれている方がたくさんいるという課題がありました。

今回は、災害時においてケアマネジャーとして役割や受援対応について、皆様にお伝えできればと考えております。

ケアマネジャー研修が変わります!

～令和7年度からオンデマンド研修導入で、学びやすく、働きやすく～

利用者の方々が適切な介護サービスを受けるためには、ケアマネジャーの質の向上が欠かせません。しかし、これまでの集合研修は、時間的な負担が大きいという課題がありました。

そこで、国はケアマネジャーの質を確保しつつ、負担を軽減するための研修制度の見直しを進めています。三重県では、この見直しに先駆けて、令和7年度から法定研修を大幅に見直します。

対象研修

- 専門研修課程Ⅰ
- 専門研修課程Ⅱ
- 主任介護支援専門員研修
- 主任介護支援専門員更新研修

オンデマンド研修のメリット

- 自分のペースで学習できる
- 繰り返し学習できる
- 仕事への影響が少ない
- 研修内容が標準化される

変更点

- 講義
オンデマンド配信
(いつでもどこでも学習可能)
- 演習
WEB研修
(自宅や職場から参加可能)

今回の実施方法の見直しにより、ケアマネジャーの皆様がより学びやすく、働きやすくなることが期待されます。そして、質の高いケアマネジメントを通じて、利用者の方々がより安心して生活できる地域づくりを目指します。詳しくは、下記までお問い合わせください。

問い合わせ先：三重県社会福祉協議会 介護支援専門員試験・研修センター TEL (059) 271-9911

☎05979-3-0514 (御浜町地域包括支援センター内)



紀南支部

PR 紀南地域の特色のひとつでもあるのですが、様々な職能団体や行政などと協働しながら活動することの多い地域ということで、多職種間の距離が近く、他団体との共催事業も多く、様々な職種の方々と交流しながら活動しています。

📝 単独では、2つの研修会を開催しました。具体的には、訪問診療を中心に新たに開業された診療所から、向原医師を講師に招き、交流会も含めた研修会を開催。また、「適切なケアマネジメント」をテーマとした石山麗子さんによる研修会も開催しました。それ以外にも、共催企画による多くの研修会を開催しました。

👉 人口減少が進むこの地域の中で、介護支援専門員においても、人材育成や人材確保は大きな課題となっています。協会支部としても、会員のみならず、協会未加入者や多職種の方々とも協力しながら、地域を支えていく一員として役割を担っていけるような活動を心がけていきたいです。

💬 最近では、医療・福祉関係者だけでなく、他業種の方とも接することができており、どの業種も共通して言えることは、人を大切にすることであり、そのようなことから私自身、新たな学びにつながっています。

支部だより

各支部とも魅力的な研修が多々開催されています。近年は、ケアマネジメントの枠をこえた研修もみられ、多様な学びや気づきがさらに自分達の成長につながっていったのではないのでしょうか。私達の仕事が今後魅力あるものになるようにしていきたいですね。

PR 支部活動 PR を紹介。

📝 令和6年度開催の研修会を紹介。

👉 今年度の抱負や目標を一言。

💬 担当編集者のつぶやき



伊賀支部

PR 対人援助職の心の健康を守るために、コーチング研修を開催しています。相手も自分もお互いが安心して話せる環境づくりに取り組んでいます。

 昨年に引き続き、コーチングでコミュニケーションスキルを基礎から楽しく学んでいます。今年度は「さらなる多職種連携のために知ってほしいこと」をテーマに、訪問看護ステーション・薬剤師会の方・医師会の方にも参加いただき、日ごろから疑問に思っていることなど話合いました。

 コーチング研修を中心に、ケアマネジャーの他、福祉関係者、医療機関等多職種との研修を計画しています。

 令和6年度最後の研修は、大雪のため交通機関に支障が生じたため講師をお迎えすることができず中止となってしまいました。今年度は天候に左右されないようZoom開催も検討しています

✉ wi@hananosato-nabari.com



紀北支部

PR 私たちが活動する紀北(きほく)地区は県の南部、東紀州に位置しており、23名の会員で活動を行っています。コロナ禍の影響で、会員同士集まる機会を持つ事が難しい状況が続いておりましたが、ようやく集合形式で研修開催ができるなどの環境が整いつつあります。

 令和6年度の研修会は、「カスタマーハラスメント」と「権利擁護・虐待防止」をテーマとして開催しました。

 新年度については、ICTやAIを活用した業務の効率化や災害対応などを含め、会員の関心の高いテーマを抽出し、研修会を開催する予定です。

 会員の異動や転職、退職に伴う入会者数の減少が続いており、支部活動の運営にも影響を与えている状況です。人口減少と高齢化、マンパワー不足、社会資源の枯渇など、この地域の大きな環境の変化がケアマネジャーの仕事にも大きく影響を与えています。シャドーワークを課題として共有し、地域に発信できる役割を担いながら、少しずつ前に進んでいきたいものです。

✉ mie.kihoku.cmn@gmail.com



松阪支部

PR ①年9回の研修会開催②行政との意見交換会開催③会員アンケートの実施と分析④広報活動が支部活動の4本柱です。特に②の意見交換会では、報酬改定や保険者に対する会員の疑問や意見に対し、支部として良い働きができたかと自画自賛しています♪

 支部の圏域(松阪市・多気町・明和町・大台町)が広いので、研修会は基本的にzoom開催としています。総会と薬剤師会との合同研修会は対面で行いました。対面での開催を望む声もあるため、今後も会員同士の交流の機会も作っていきたく考えています。

 身近で相談しやすく、頼りになる存在であり続けるために、32名の理事が力を合わせて活動していきます。

 支部のホームページを、スマホでも見ていただけるように刷新しました。次世代の介護支援専門員が続々と仲間に加わる、そんな日がやってきますように。

✉ caremane@matsusakawel.com



南勢志摩支部

PR 南勢志摩支部では、月に1回程度、運営委員会を開催し、われわれケアマネジャーを取り巻く課題等を共有し、研修会等の企画・運営を行っています。

 昨年度に続き、今年度も三重県訪問看護ステーション協議会伊勢志摩地区さんとの共催研修会を開催させて頂きました。今回は「人生会議」(アドバンス・ケア・プランニング:略称ACP)をテーマに、患者さん(利用者さん)を主体に医療・介護のチームが繰り返し話し合いを行い、意思決定の支援を行うプロセスについて勉強しました。

 今年度は、可能な範囲で参集形式での運営委員会や研修会を開催していければと考えています。あわせて同じ地域で活躍される他職種の方との共催研修会も積極的に進めたいです。

 とにかく健康が一番。こころとからだを大切にしながら、ともに頑張っていきましょう!

✉ now2just7relax@yahoo.co.jp



鈴亀支部

PR 今年度は研修会を Zoom と集合とでの研修を開催。直接講師の先生とお会いできる対面研修はやはり代えがたいものがあると感じる一方、Zoom の手軽さも捨てがたいと感じる1年でした。また、今年度は鈴鹿医師会様・鈴鹿市様と合同開催を行うことで、田中滋先生にも研修会講師をご依頼することができました。

- 第1回**：介護支援専門員が知っておくべき障害福祉制度・サービス
 - 第2回**：介護支援専門員の為の ZOOM 講座
 - 第3回**：多職種でかかわる介護とケアマネジメント -2040 年に向けた地域包括ケアシステムの進化-
 - 第4回**：介護予防・日常生活支援総合事業 ~地域のサービスを活用するために~
- 津・鈴亀支部合同研修会：災害に遭われたご利用者・ご家族をどのように支援していけばよいか？

👉 令和7年度では、事例研究会の進め方を再度学ぶことから初め、一人ひとりのケアマネの力となれる活動を目指します。

💬 田中先生がワイン好きなのがわかりました(笑) みんなで3本開けたものの、まっすぐ歩ける先生の強さに感服です。

☎ mie.cm.suzukameshibu@gmail.com



桑員支部

PR 令和7年度より桑名市が開催する地域ケア個別会議(ゆめはまミーティング)の業務委託を受けました。ケアプラン点検方式の(要介護ケース)において、支部所属の主任介護支援専門員がアドバイザー(写真)として司会進行、講評作成等を担当しています。京都式ケアプラン点検ガイドラインを活用することで、同じ視点で点検でき、ケアマネジメントの課題や新たな気づきが得られます。一緒に高め合うことで、ご利用者・ご家族の生活がより豊かになるよう役立てていきます。

📖 集合研修は上原久氏によるアセスメント力向上研修「対象者を理解するための視点、基礎知識を学ぶ」を開催しました。質問の仕方、聴き方の技術について助言を受け、参加者全員で一問一答の実践を行いました。全員参加型で活気があり、すぐに役立つ有意義な研修となりました。その他、オンラインにて年6回開催しました。

👉 会員同士の交流会を企画しています。支部が中心となりケアマネジャー同士の仲間づくりを積極的に行い、組織力を向上につなげます。

💬 介護人材の確保と職場環境改善のため、処遇改善加算の算定要件が緩和されました。生産性向上と働きやすさの両立を目指すのは介護支援専門員も同様なのに、、、置いてけぼりにしないでほしいですね。

☎ sewing.jcma@gmail.com

津支部



PR 津支部では年6回研修会を開催しております。研修会は Zoom を使用して開催をすることで、他支部の方の参加や県外の講師をお招きすることもできています。

📖 メンタルヘルス対策、ヤングケアラーについて、津市役所介護保険課との勉強会、鈴亀支部との合同での災害対策について、サ高住や有料老人ホームとの合同勉強会などを行いました。

👉 研修会を通じて介護支援専門員一人ひとりの資質向上をめざし、関係機関との連携を強化し、会員の皆様の日々の業務に役立てることのできる研修を立案したいと考えています。

💬 令和6年度、初めて津市単独でラン伴が開催されました。ラン伴は認知症の人と一緒にタスキをつなぐ体験を通じてだれもが暮らしやすい地域づくりを推進する活動です。次年度も開催予定です。誰もが暮らしやすい津市になりますように。

☎ kanaho0124@gmail.com (支部長)

☎ tlsshisei@zd.ztv.ne.jp (事務局)



三河支部

PR 四日市市・菰野町・川越町・朝日町の介護支援専門員の会員の皆様と共に研修をはじめ、広報委員会・災害委員会の活動や独自のイベントも実施。より幅広く知識・実践力を向上し横のつながりの持てる活動を行っています。

- 第1回**「令和6年度介護保険法改正及び報酬改定のポイント」
 - 第2回**「ケアマネジャーが遭遇する保険年金高齢者のお金の基礎知識」
 - 第3回**「ケアプラン点検研修」
 - 第4回**「障がい者福祉と介護保険」
 - 第5回**「新年交流会」
 - 第6回**「成年後見制度について」
- ケアマネカフェの開催(5回) イベントの開催(1回)

👉 知識・実践力を向上し横のつながりを持つことで介護支援専門員自身がより質の高い支援の提供はもとより、介護支援専門員を継続していく事ができるよう魅力も発信していければと思います。

💬 介護支援専門員の實務に就く方が決して多くない中、介護支援専門員協会の研修や活動を通して、やりがいや魅力についても会員の皆様に多く持ってほしい、またそれを発信しより多くの仲間を増やしていければと思います。

☎ mie.care.association.branch@gmail.com

『地域活動』

さんあい薬局
ケアプランセンター
管理者 小川 隆央

私の勤める居宅支援事業所の母体は「薬局」という、あまりない形態です。でも薬剤師さんが身近にいと、薬の確認や相談が直ぐにでき、最初の段階で薬の思わぬ作用に気付くことができます。また逆に薬剤師さんに対し在宅に必要な介護保険等の情報をお伝えすることができ、この形態だからこそそのメリットが双方にあるのではと感じています。

私は今、介護支援専門員としての業務も行っていきますが、毎週木曜日と金曜日の半日は、桑名市内二箇所において桑名市健康・ケア教室（通所型サービスB）を開催しています。当社は十年以上前より薬局・薬剤師が在宅や地域に関わることを積極的に取り組んでいました。そのような会社の方向性の中で、私にできることは何かと考えた時、地域包括様からの助言もあり通所型サービスBの開催を企画。まずは「コグニサイズ」の

指導資格を取得し、認知症予防運動として教室をスタートさせました。

教室に参加する方は諸々の理由で通院している方が多いものの、お元気な方がほとんどです。年齢も六〇代から九〇代までと幅広く、もの忘れの程度もそれぞれです。現在、各教室とも毎回二〇名から三〇名ほどの参加者がいらっ

しゃいます。教室の開設当初から心掛けていっているのは、単に運動や交流の機会を提供するのではなく、支援が必要な方の早期発見につなげることです。地域には支援が必要だけど届けられない方がまだまだたくさんいます。もし私が開催する教室がそのような方を導くきっかけになれば、次につなげていくことができます。

教室の中で私が介護支援専門員として、コグニサイズの指導者として、「この方、気になる」と感じた時は担当包括様と情報の共有を行い、双方から少しずつその方との距離を縮めながら信頼関係を築いていきます。これまでこのような方法で数名の方に担当包括様に関わり、必要な支援の提供が行われるよう

になりました。また参加いただいている方のご家族から相談をいただくことや、参加者から友人が心配との相談をいただくケースもあります。

私はこれまでに、たくさんの方々から対人援助業務を教わりました。本当に感謝しております。教えていただいた対人援助業務を振り返りながら介護支援専門員としても活動しています。今後については、地域の方と一緒に地域での活動を進めながら、その輪を拡げていきたいと考えています。これまで学んだことを、ここでもしっかりと発揮していきます。



○事務局だより

●WEB版ケアマネ通信について

前回（2024.10）発刊のケアマネ通信のご案内の通り、ケアマネ通信は誌面版とWEB版を併行して発刊することとなりました。WEB版はホームページで、いつでも手軽にご覧いただけます。WEB版ケアマネ通信第1号は2025年3月に発刊し、東海ブロック研修会のリポート記事を掲載しました。WEB版は、不定期ですが随時発刊してまいりますので、ぜひホームページをご覧ください。



WEB版ケアマネ通信
QRコード

●研修会案内

本年度も月1回程度、様々な研修会を開催してまいります。研修会の内容やお申込みについては、随時ホームページでご案内しておりますので、ご覧ください。なお、**研修会案内配信**にご登録いただくと、申し込み受付開始をいち早くメールでお届けいたします。ぜひご利用ください。

研修会のご案内は
コチラ→



研修会案内配信設定
QRコード



●令和7年度 総会について

6月15日（日）三重県社会福祉会館講堂にて開催いたします。総会と記念講演につきましては、Zoomを活用しライブ配信いたします。詳しくは同封書類にてご確認ください。